

経済委員会

ナイトバザールで活性化

埼玉県秩父市「みやのかわ商店街」

秩父市は羽村から車で約1時間半。面積は60倍あり、人口は6万5千人。市内を歩くと、街中が歴史博物館のよう。由緒ある神社仏閣、伝統の祭り。江戸時代の町家は無料休息所に再生され、休日にはS.L列車が走ります。

秩父神社脇を通る国道299号線に沿った約200mです。その奇想天外のまちづくりで功体験はたびたびマスコミで取り上げられ、全国から視察が絶えません。

秩父市は羽村から車で約1時間半。面積は60倍あり、人口は6万5千人。市内を歩くと、街中が歴史博物館のよう。由緒ある神社仏閣、伝統の祭り。江戸時代の町家は無料休息所に再生され、休日にはS.L列車が走ります。



↑みやのかわ商店街活性化の仕掛け人・島田前理事長

経済委員会は、主に、市内の商工業や農業、祭りなど市内の観光事業、消費生活、また、水道や道路、街並みなどの都市整備基盤に関することを担当しています。

今回の視察では、商店街の活性化に重点を置きました。

【視察内容】

10月17日 埼玉県秩父市みやのかわ商店街振興組合

「商店街活性化への取り組みについて」

失敗しても反省せず。まず行動あり

- ③従業員は帰し、店主、家族が働く。
- ④担当者が責任を持ち幹部は口出しせず。
- ⑤景品で客を呼ぶ。

国道を遮断しての歩行者天国は困難を極めたが、警察署長の大英断に助けられた。



↑毎回盛況のナイトバザール。シンプルなゲームでも人だかりができる（みやのかわ商店街提供）

が景品だ。冷たくて5分もたないだろうとの予想がはずれ、みんな我慢、我慢。軽度の凍傷の子も出て、翌日、家庭や学校を謝り歩いた。これがニュース報道されると、街の活性化の取組みとして話題を呼びました。

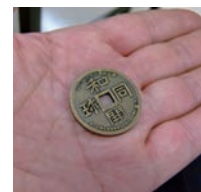
これまで考えたイベントは800種。「名刺バスケット」は投げてかごに入れるだけ、空き缶を積み上げてゲームになる。「祭り囃」や「サンバ行進」も盛り上げに一役買っ、さらににぎやかに。

ヒトを活用、モノを売る。新たな取組み

- ①ボランティアバンク「おたすけ隊」は、買い物代行、掃除、外出介助などの弱者支援組織。



↑懐かしいたずまの無料休憩所「ほっとすばと秩父」（下は内部を見学する経済委員）



←「おたすけ隊」で流通する和同開珎

- ②出張商店街「楽楽屋」は、高齢者施設に商品を持ち込み「買い物をしたい」の要望に応える。
- ③映画劇場を復活。「キューポラのある街」「嵐を呼ぶ男」など懐かしの名作を上映した。
- ④500円商店街食事は、店主たちが仲間の飲食店で開く交流会。こうして次世代も育てていた。現在、通りに空き店舗はありません。

島田さんは昨年理事長を退任、若い世代にバトンタッチしました。

今、秩父はテレビアニメ「あの花」の舞台として、コスプレ衣装で街を歩くヤング世代の聖地にもなっています。

行政に頼ることなく自らのアイディアで行動する、この地元商店街の元気が地域を活性化させることを、改めて教えられました。

厚生

生

委

員

会

子育て支援と高齢者施策の特色ある事例を調査

横のつながりを大切に

山口県山口市「NPO法人あつと」

「子ども・子育て支援新制度」が、平成27年度にスタートする予定です。それを踏まえ、山口市の子育て支援施策を視察しました。



↑「あつと」が開設した子育て支援施設「ほっとさろん西門前てとてと」。入口からもほっとする雰囲気がにじむ。「てとてと」には「手と手を携えて」の意味も込めて

山口市内で子育て支援の中心的存在となっているのは「NPO法人あつと」です。この団体は、様々な子育て支援事業を行う上で、地域で支える仕組みを作ること、その仕組みに母親自身の力を活用すること、この2点を重視しています。スタッフ経験者は延べ200人で、卒業後も地域を支える人材となつて活躍しており、出産を期に離職した女性の社会参加促進にも貢献しています。「あつと」の事業の中で特に印象に残ったのは、地域子育て支援拠点全体研修会の開催です。保育所拠点・地域拠点・全24か所が合同で、スキルアップと課題解決、情報共有のための研修会を年5回も開催しているそうです。

ほかに一時保育や、様々な体験事業を行っています。他団体との交流、つまり、横のつながりを非常に大切にしているという印象でした。様々な条件や考え方が異なる団体がつながるのは容易ではなかったようですが、子どもたち、お母さんたち、そして地域のための活動という共通の



↑「てとてと」内で説明を受ける厚生委員

使命感があつたからこそ実現できたのだらうと感じました。「NPO法人あつと」の設立趣旨を一部抜粋し紹介します。「子どもは親だけの力で育て

『バリアフリー』で自立への取組みに成功

山口県防府市「夢のみずうみ村防府デイサービスセンター」

「バリアフリー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。山口県防府市にある介護施設「夢のみずうみ村防府デイサービスセンター」では、あえて段差や障害物を取り除かない方法を取り入れ、効果を上げています。厚生委員会では、その実情を把握するため、防府市の施設を訪ねました。

防府市は、山口県のほぼ中央部に位置し瀬戸内海に面し、古くから製塩業が盛んで交通の要衝としても栄え、発展し

てきた歴史あるまちです。昭和30年代からは企業誘致に成功し、現在では県を代表する産業都市として発展を遂げています。その中心地から程よい所の自然豊かな一角に、このデイサービスセンターはありました。

現役人生と生きがいを求め、一日平均100名が来所し、何を求めるのもすべて個人の自由。自己選択・自己決定が基本で、活動メニューは豊富にあります。それらをこなせば所内で使える通貨がもらえ、それをまた使ってさらに色々なメニューに挑戦。やりたいメニューを



↑階段には励ましの言葉が

リクエストすれば可能な限り用意してくれます。一番驚いたのは、転ぶ練習ができるメニューでした。現状を維持させるだけではなく、実際の社会生活へ復帰できるようリハビリや自立支援に力を入れているからでしょう。

当然安全面にも配慮が。施設長、副施設長は看護士資格を持ち、職員の教育も充実。家族にもこれら自立への取り組みを理解して頂き、信頼関係が築かれているそうです。当初リハビリで入所した方が、どんどん回復して、今では他の入所者を指導するまでに。また、職員になった方もいる

られるものではない。社会の中のいろんな人と関わりあつてこそ、豊かな子育てができる。私たちは、互いに支えあう子育てを通して、誰もがあらがままを受け入れられ、いきいきと活躍できる地域社会を作る『子育てから始めるコ

ミュニティの創造』を目指します。ますます子育て支援施策が求められているいま、羽村市でも、このような先進的な取り組みを積極的に導入し、地域全体の子育て支援機能の向上を図っていくべきと考えます。

そうです。

バリアフリーの考えから発想を転換し、実社会での生活を想定した脳や身体を鍛えるメニューの導入。元気で生きがいの持てる人生が送れるような、このような施設が今後増えることを望みます。



↑予定は自分で組む。予定表の下には杖置き場。杖を放して歩くことを勧める張り紙があった



↑訪問した日はジャム作り教室を開催